

(平成20年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	11月期の野菜の入荷状況は、果菜類や土物類は概ね前年並みの入荷となったものの、根菜類や葉菜類については播種期の豪雨や生育期の低温により入荷減となった品目が多く、全体の入荷量としては前年同期を3%下回った。 価格は、入荷が安定していた果菜類、土物類では前年並みで推移し、入荷が減少した根菜類や葉菜類で単価高となり、全体としては前年同期を3%上回った。 品目別には、長大根、はくさいが入荷増の単価高、とまとは入荷増の単価安となり、かぶら、キャベツ、ほうれんそう、レタス、きゅうりが入荷減の単価高、西洋にんじんは入荷減の単価安となった。また、なす、ばれいしょは入荷前年並みの単価高、玉葱は入荷量、単価ともに前年並みとなった。 根菜類は、入荷が3%減少し、価格は8%高となった。 葉菜類は、入荷が7%減少し、価格は4%高となった。 果菜類は、入荷が前年並みで、価格も前年並みとなった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格も前年並みとなった。
果 実	11月期の果実の入荷状況は、アールスメロン、みかん以外は豊作傾向であったものの、アールスメロンの作付面積が減少したことに加え、主力のみかんが裏年のため、全体の入荷量としては前年同期を5%下回った。 価格は、りんご、かきなどが下位等級の割合が高かったことから、入荷減ながら前年並みとなった。 品目別には、みかん、アールスメロンが入荷減の単価高、ジョナゴールド、ふじりんご、富有柿、いちごが入荷増の単価安となった。 柑橘類は、入荷が17%減少し、価格は24%高となった。 りんご類は、入荷が12%増加し、価格は19%安となった。 かき類は、入荷が前年並みで、価格は22%安となった。 いちご類は、入荷が30%増加し、価格は14%安となった。 メロン類は、入荷が40%減少し、価格は34%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長大根 かぶら 西洋人参	千葉県を中心に、青森県、岩手県、徳島県、北海道からの入荷。 播種期の豪雨や生育期の低温により、各産地ともに生育が悪かったものの、中央集散機能が発揮され、入荷量は前年同期を３％上回った。 価格は、全国的な品薄感に加え、上位等級の割合が多かったことから、前年同期を１７％上回った。 京都府を中心に、滋賀県からの入荷。 播種時期の高温と豪雨により、生育、作柄ともに悪く、入荷量は前年同期を３０％下回った。 価格は、入荷減に加え、需要も高く、前年同期を７６％上回った。 北海道、長崎県を中心に、鳥取県、滋賀県、千葉県からの入荷。 主力産地の北海道は前年より早い積雪によって入荷が減少し、入荷量は前年同期を４％下回った。 価格は、上旬に北海道産が減少したものの、中旬以降は長崎県からの順調な入荷が始まり、全体では入荷減ながら前年同期を７％下回った。
【葉菜類】 はくさい キャベツ ほうれんそう レタス	茨城県を中心に、長野県、滋賀県、群馬県、岡山県からの入荷。 茨城県からの入荷が潤沢にあり、入荷量は前年同期を３％上回った。 価格は、中旬に気温が急激に下がり鍋需要が高まったことにより、全体で前年同期を７％上回った。 愛知県、茨城県を中心に、滋賀県、長野県からの入荷。 秋冬産地である愛知県、茨城県が生育期の天候不順によって作柄悪く、入荷量は前年同期を１３％下回った。 価格は、入荷減に加え、量販店での特売需要が重なり、前年同期を６４％上回った。 京都府を中心に、徳島県、岐阜県、鳥取県、滋賀県からの入荷。 主力である京都府では播種期の豪雨に加え、１１月の低温により生育が遅れ、入荷量は前年同期を２４％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を１４％上回った。 兵庫県、茨城県を中心に、長崎県、徳島県からの入荷。 各産地ともに播種期の降雨に加え、１１月の低温によって作柄が悪く、入荷量は前年同期を１７％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を２５％上回った。

【果菜類】 きゅうり	宮崎県を中心に、滋賀県、高知県、福岡県、群馬県からの入荷。 各産地とも定植期の日照不足により作柄は悪く、入荷量は前年同期を23%下回った。 価格は、全国的な品薄感から前年同月を49%上回った。
なす	高知県を中心に、岡山県、京都府、徳島県からの入荷。 夏秋産地である京都府、徳島県産については前進出荷によって入荷が減少したものの、後続産地への切り替わりはスムーズにいき、入荷量は前年並みとなった。 価格は、前進出荷によって単価の安い夏秋物の入荷が少なく、全体としては前年同期を17%上回った。
トマト	熊本県、滋賀県、岐阜県を中心に、京都府、北海道からの入荷。 9月の日照不足によって一部着荷不良が見られたが、前年が極端な品薄状態であったことから、入荷量は前年同期を10%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を8%下回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、韓国、茨城県、鹿児島県からの入荷。 各産地とも安定した入荷状況であり、入荷量は前年並みとなった。 価格は、前年が単価高であったため、前年同期を14%下回る結果となった。
【土物類】 ばれいしょ (メーク含む)	北海道を中心に、長崎県、愛知県からの入荷。 北海道が小玉傾向となり入荷が減少したものの、長崎県からの入荷が増加したことで、全体として入荷量は前年並みとなった。 価格は、小玉傾向での入荷ながら、前年が単価安であったことから、全体としては前年同期を6%上回った。
たまねぎ	北海道を中心に、兵庫県、京都府からの入荷。 北海道、兵庫県については前年同様に大玉傾向での入荷となり、全体としては入荷量及び価格ともに前年並みとなった。
【その他野菜】 生しいたけ	徳島県を中心に、広島県、和歌山県、岡山県からの入荷。 各産地ともに生産量の増加に伴い、出荷先を分散させたことから、入荷量は前年同期を13%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を8%上回った。

主要品目（果実）	市況の概況
みかん	和歌山県を中心に、福岡県、愛媛県、長崎県からの入荷。 本年は裏年に当るため、入荷量は前年同期を18%下回った。 価格は、入荷減に加え、上位等級中心の入荷であったことから、前年同期を61%上回った。
ふじ （サン含む）	長野県を中心に、青森県、岩手県、山形県、秋田県からの入荷。 各産地とも豊作傾向であり、入荷量は前年同期を24%上回った。 価格は、入荷増に加えて下位等級の割合が多く、前年同期を18%下回った。
ジョナゴールド （サン含む）	青森県を中心に、岩手県からの入荷。 豊作傾向で安定した入荷状況となり、入荷量は前年同期を4%上回った。 価格は、着色不良など下位等級中心の入荷であったことから、前年同期を26%下回った。
富有柿	奈良県、福岡県を中心に、京都府、滋賀県からの入荷。 各産地とも台風等の気象被害はなく豊作傾向であり、入荷量は前年同期を5%上回った。 価格は、着色不良などの下位等級の割合が高く、前年同期を15%下回った。
いちご	福岡県を中心に、熊本県、大分県、佐賀県からの入荷。 各産地とも生育順調で前進出荷となったことから、入荷量は前年同期を30%上回った。 価格は、入荷増により前年同期を14%下回った。
アールス	静岡県、熊本県、高知県を中心に、宮崎県、愛知県からの入荷。 静岡県は作付面積の減少に加えて小玉傾向での入荷となり、熊本県、宮崎県についても天候不良による生育遅れが見られたことから、入荷量は前年同期を42%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を40%上回った。